

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	こども発達支援 みんなの基地				公表日 令和7年4月15日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	2	・個別活動と集団活動で部屋を使い分ける、机の配置や座る向きなど工夫しています。	・利用人数が増えてきた時にホールと小部屋の2空間で個別活動した場合、落ち着いて取り組むことが難しくなるのではないか。その中で気持ちが崩れた子どもの個別対応などが重なると気持ちを落ちさせる空間の確保も難しいのではないか。
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		5		・日によっては人員不足で個別支援が難しい日がある。 ・癪癪の時などマンツーマン対応した場合、もう一人の職員の役割負担が大きくなる。 ・現状は厳しい。少ない人数で支援しているので、4月から職員体制が整えば、もっとより良い支援ができると思う。 ・人員基準は満たしているものの、現在利用している子どものことを考えた上での配置としては不十分。しかし、令和6年度年間通してずっと不十分というわけではなく、職員がなかなか定着しないことが根底の課題としてある。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障がいの特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	2	・子どもにわかりやすいように構造化は取り組んでいます。 ・情報伝達においても、子どもが理解しやすいように視覚情報を用いる等工夫しています。	・スペースの確保が不十分。 ・バリアフリーというところではトイレなどは考えていく必要がある。 ・床が硬く、転倒した時に危ない。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	1	・清潔に心掛けています。 ・子どもたちのことを考えながら生活空間は整えています。 ・隠れ部屋があり、そこを利用して遊んだり、一人になって過ごしたりしています。 ・先生たちは困難な状況下においても環境、人員配置の工夫をしています。	・全部が「いいえ」というわけではないが、個別に集中して取り組むスペースがないため、環境調整や人員配置に苦慮している。
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	1		・個別の部屋がもう少しあっても良い。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	2	・毎日の朝、昼コミュとふりかえりができる。 ・しっかりと記録をしています。	・全職員への浸透はできていない。 ・発言するのは決まった職員で、全員が参加しているようには感じない。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		・令和6年度は3月29日に事業所全体評価を行いました。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	2		・把握している職員としている職員がいる。 ・ふりかえりコミュが午後に設けられない。今は午後に必要だと感じる。必要に応じて行うべきだと思う。 ・3月29日に行う予定。 ・面談する機会をいただいている。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	4		・外部評価は行っていない。 ・外部評価をまだしていない。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		・事業所内部研修の実施、外部研修への積極的参加、法人研修への参加。 ・外部研修については職員へ案内し、参加や資格取得の応援もしています。	
11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		・令和7年1月31日に公表しています。		

	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4	1		・児発管として間もないため適切に行えているか自信はないが、日々教えていただきながら取り組んでいる。
13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		・支援会議では出勤している職員全員が参加し、子どもにとって何が良いかを考えた上の意見や助言、支援の在り方考え方について話し合っています。	
14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	1	・児童発達支援計画書は全職員に確認してもらい、いつでも見返せるように基地の棚にも計画書置くようにしています。計画に沿って細かく支援されています。	・共有できているかは不明。
15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1	・障がい児の調査項目と宮崎市の引継ぎシート内容を網羅したアセスメントシートを作成し、使用しています。 ・アセスメントシートや日誌で子どもの状況を確認することができます。	・よくわからない。
16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		・子ども家庭庁より発出されている参考様式を使用して児童発達支援計画を作成しております。	
適切な支援の提供	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	2	4	・毎月ペースは決めているので組み立てはしやすいと思う。	・決まった職員が毎月考えている。特に行事や制作、運動、五感はみんなで案を出し合いたい。 ・立案する職員に偏りがある。 ・慢性的な職員不足と職員がなかなか定着しないことにより、ひとり当たりの負担が大きい。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		・利用児の状況や季節に合わせて活動プログラムを立案してくれています。	
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5			
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		・午前、午後の支援前にはMTGを行っています。 ・ねらいや視点のポイントを共有するようにしています。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	3		・午前の部のふりかえりは行えているが、午後のふりかえりが人員不足による一人当たりの業務負担量、それによる時間的余裕のなさにより実施できていないため、あと一步。 ・気づきの共有はもっとしたいところ…もつたいない気がする。 ・現場の職員で決まった職員間では行えているが、全員が全員共有しようすることはない。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		・活動月案があるため活動日程がわかりやすく、記録も振り返りやすくなっています。 ・記録は徹底され、PDCAを意識した記録となっています。	
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		・児童発達支援管理責任者が適切に行っています。	
	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			・職員配置に余裕が出てきたら、児童発達支援管理責任者や管理者の参加だけでなく、直接支援の職員も参加できるようにしていきたい。
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		・自立支援協議会への参加、地域の保健センターや児童発達支援センターなど、積極的に連携する心構えでいます。	
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	1	・日々実践しているところで、関係機関との情報共有も心掛けています。	・支援内容がどこまで共有されているかわからない。

関係機関や保護者との連携	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	1	4	・今まさに実践しているところです。	・わからない。 ・保護者を介しての話は聞いている。 ・まだ実践はしていないが、小学校に連携会議への参加呼びかけをしている段階。
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	2	・必要な時に相談してスーパーバイズを受けています。	・わからない。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。				
	33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		・連絡帳やメール、電話、面談などを通して丁寧に行うよう心掛けています。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2	・先生たちの連絡帳は間接的保護者支援や理解を深めるものになっていると感じていますし、そういうお言葉を保護者さまからもいただいています。	・ペアレント・トレーニングを開催するまでに至っていない。 ・やりたいことはたくさんあるが、そこまで手が回らないというのが正直なところ。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	1	・始まりの部分のため、難しい言葉をかみ砕きながら丁寧な説明を心掛けています。 ・自己負担のあるご家庭はありませんが、報酬改定の時には対面にて細かに説明を行わせていただきました。	・自分は行わない。 ・支援プログラムについては対面ではなくおたよりでの案内とHP掲載のみであった。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			
保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4	1		・自分はしないのでわからない。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	1		・自分はしないのでわからない。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	1		・設けてはいるが、まだ回数が少ない。 ・本当はもっと頻回に開催したいところだけど(茶話会は特に)、職員の入退職や休所など様々な理由で今年度は数回の茶話会と家族会の実施(3月22日)で終わった。 ・父母の会は基地にはない。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	1		・わからない。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4	1		・自分はしないが、施設としては取り組んでいると思う。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5		・わからない ・なかなか地域住民との接点がない。戸外活動等に行けば、何かのきっかけになるかもしれない。 ・今は親子までの参加まで。 ・やりたいことはあっても余裕がない。

	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5			・保護者様にもう少しアピールした方がいいのだろうけど…
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4	1		・服薬する児童がいない。 ・てんかん発作のある児童もいない。
非常時等の対応	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1	・ご家族や園には確認していますが、医師からの指示書はいただいていません。 ・基地では食事はなく、現利用時についてはおやつは園から持参するため、完全アレルギー除去食となっています。	・医師の指示があるのかわからない。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5			・ヒヤリハットがあった場合は再発防止に向けた検討を行っているが、ヒヤリハットの提出は少ない。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3	2	・原則、身体拘束は行わないとしています。ただし、やむを得ずという状況がある場合は組織的に決定し、保護者様へ事前の説明と了承を得た上で、児童発達支援計画に記載することとしております。	・該当児がない。 ・身体拘束を必要とする児童がない。